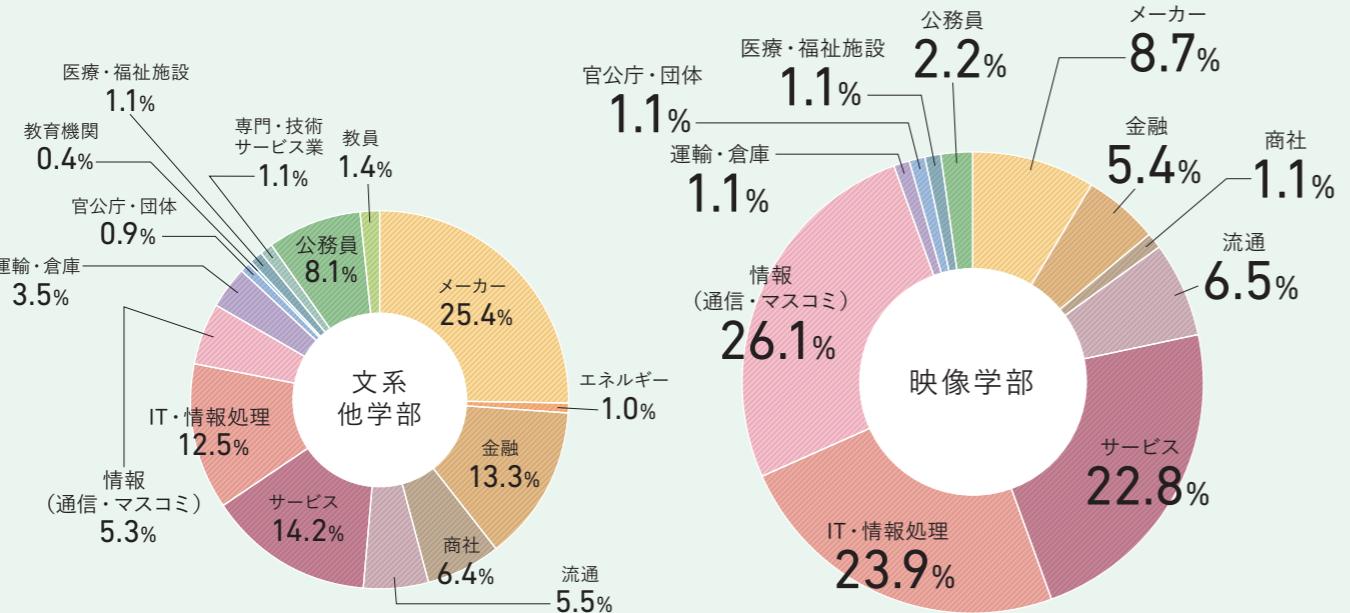


情報メディア産業へ、あらゆるビジネスフィールドへ、開ける未来

将来のキャリアを見すえて学ぶ4年間を通じて、映像文化・産業を担う専門知識や技術はもちろん、社会で広く求められるさまざまな力を鍛え上げる。映像学部から、映像業界やゲーム業界をはじめとしたあらゆる情報メディア産業界へ、さらには社会のさまざまなフィールドへ、活躍の舞台が広がっています。映像学部での学びの成果は、専門性を活かす情報(通信・マスコミ)、IT・情報処理への就職で際立っています。

2024年度卒業生 就職先分野



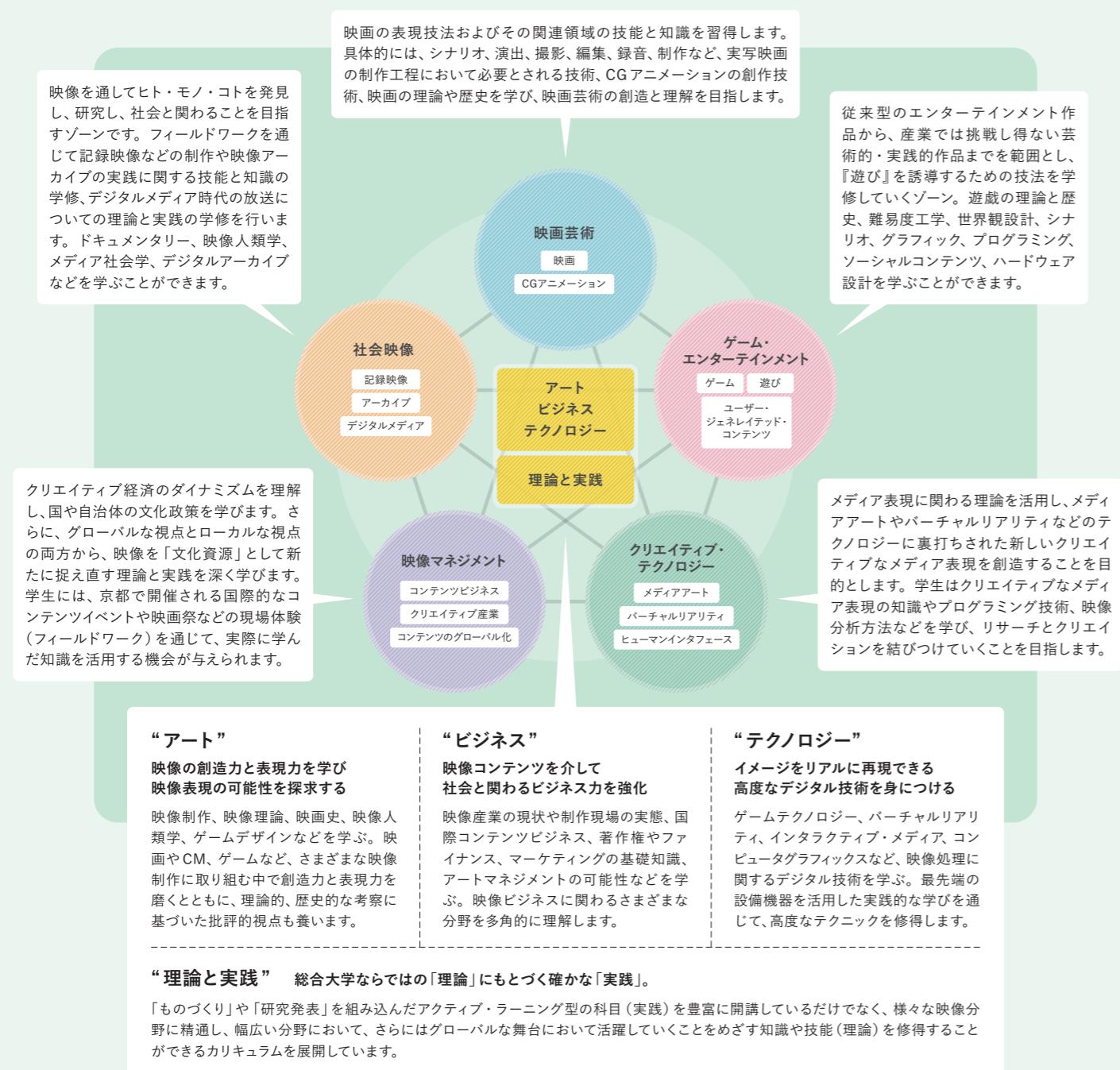
「映像」であらゆる分野をつなぎ、社会に貢献する。

映像学部は、多様化する映像にアート、ビジネス、テクノロジーの要素を備える様々な科目を5つの学びのゾーンに配置しています。

これらの科目を通じて「理論」と「実践」の往還的な学修をおこない、映像を用いた社会課題の解決と

その基盤となる多様な価値の創造を追求していく「プロデューサー・マインド」を育成するためのカリキュラムを編成・実施しています。

5つの学びのゾーンを横断し、自分にしかできない新しい領域を作る



目指すキャリアモデル

PRODUCER

コンテンツ・プロデューサーや、映像文化と地域の活性化に貢献できる人材になることを目指します。

CREATOR

映画、CGアニメーション、ゲームなどの映像制作現場で活躍するクリエイターやアーティストを目指します。

ENGINEER

映像制作を技術で支えるエンジニアやプログラマ、SE、テクノロジーの研究者を目指します。

RESEARCHER

次代の映像文化を担う研究者や教育者、アーキビスト（資料保存・管理の専門職）を目指します。

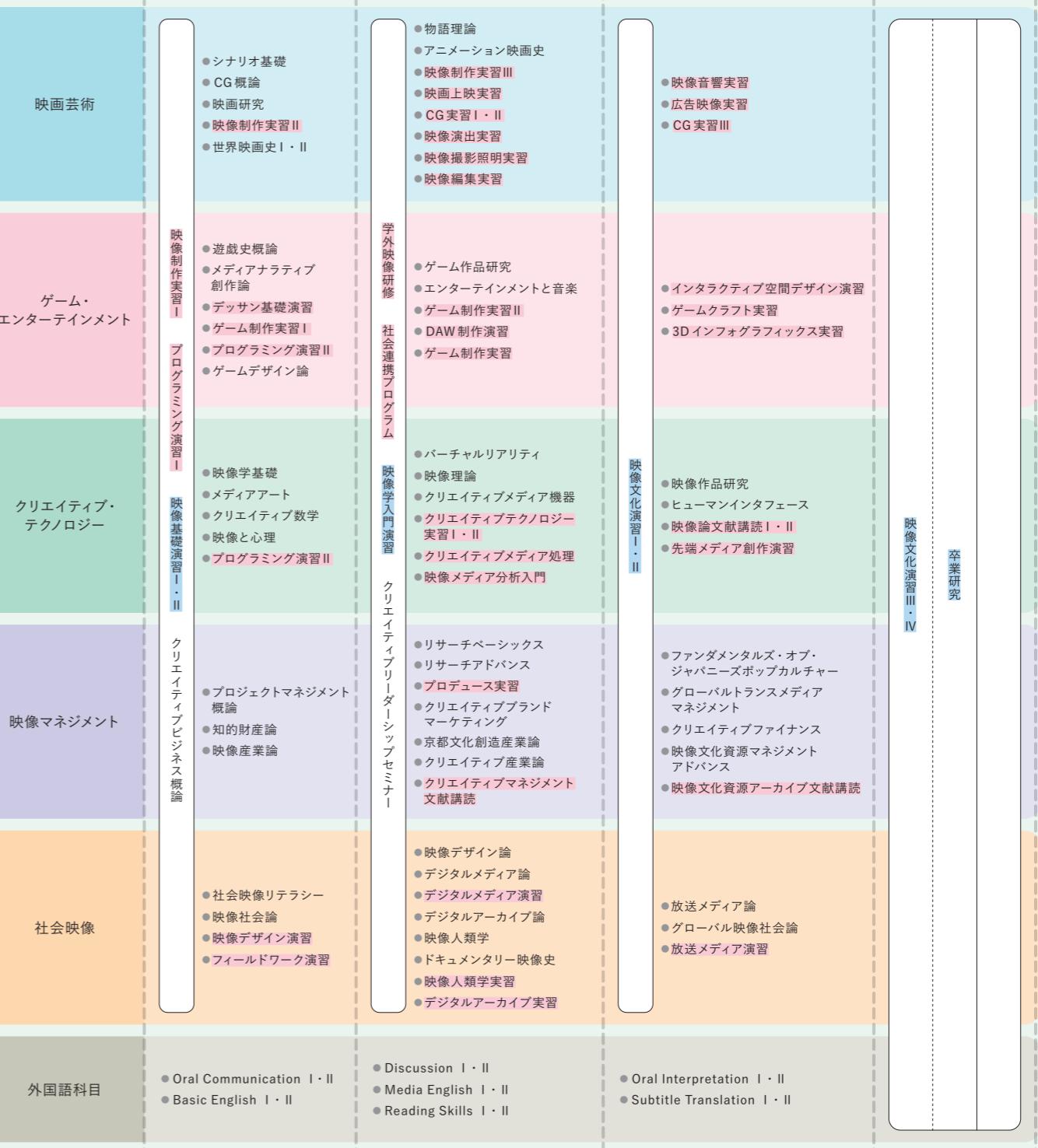
4年間の学び

1回生
読解力や表現力、マネジメント力を少人数授業で修得し、映像に関する知識を広げます。また映像制作の手法を実践的に身につける実習授業や、プロデュース能力を磨く講義も履修できます。

2回生
映像の理論や歴史、マーケティングなど専門領域を学ぶ授業が本格的に始まります。自身で選択したゾーン別の演習クラスに所属するとともに、映像に関するプロフェッショナルを招く特別講義を通して、キャリア形成の意識を高めます。

3回生
基礎を応用する学びへとステップアップします。ゼミナール（映像文化演習）で、高度な映像制作や歴史的、芸術的、社会的、国際的な諸問題に関する理論的、実践的な研究が始まります。さらに提携企業でのインターンシップを通して、実践力と職業観を養います。

4回生
映像文化演習を通じて、キャリアを意識した自身の研究を深め、4年間のトータルな学びを集大成する「卒業研究」に取り組みます。



※上記は2025年度開講予定のカリキュラムです。科目名称等が変更になる場合があります。※上記の科目は、各ゾーンの代表的な科目および外国語科目を掲載しています。※網かけなしは「理論」系、は「実践」系の科目です。※は小集団で行う科目です。映像学部では、4年間を通して細かな小集団教育を行います。※一部の科目は衣笠キャンパスで開講します。



「理論」と「実践」で未来の「映像」を創造する

「5つの学びのゾーン」は、「理論」で学び、「実践」で活用する授業を豊富に展開しています。ものづくりや研究発表を組み込んだアクティブ・ラーニング型の科目(実践)だけでなく、様々な映像分野に精通し幅広い分野において、さらにはグローバルな舞台において活躍していくことをめざす知識や技能(理論)を修得することができるカリキュラムを展開しています。





最先端に触れるさまざまな特色ある教育

Career

FEATURE 01

将来的なキャリアデザインを考えるための 豊富なキャリア形成科目

産学連携型の人材の育成を目標の一つとしており、キャリア形成科目として社会的ネットワーク型授業を開講しています。様々な分野の企業や学外機関と連携しながら専門性を高めるとともに、卒業後のキャリアについて考えます。

クリエイティビリーダーシップセミナー

映像関連分野のクリエイター、プロデューサー、経営者などによる講演、キャリア・マネジメント関連講義で構成する授業です。



学外映像研修

映像関連会社、映像制作会社、ゲーム関連会社など、多様な企業・団体の現場で業務の一端を体験する授業です。



社会連携プログラム

企業や学外機関と連携して、具体的な目標、目的を持ったコンテンツの共同開発、共同研究等を実施し、実践的な知識と技術の獲得を目指す授業です。



FEATURE 02

学びの成果を社会にアウトプットする取り組み

Output

5つの学びのゾーンを横断して身に付けた知識・スキルを外部に発信し、成果に対して客観的に評価してもらいながら更に学びを発展させる取組を積極的におこなっています。このような「アウトプット」を通して、モチベーションだけでなく、運営力・調整力・応用力、そして社会性を育みます。



「シネマグラ」
制作ゼミ正課作品上映会



「作品上映・トークショーの企画・運営」
外部ゲストの講演会



「月に足つけて考えて展」
メディアアートゼミの展示会



「VR・AR作品の体験会」
VRゼミによる企画



「京都ミライマツリ」
学内展示特設ブース

FEATURE 03

Global

グローバルな取り組み

学生時代から世界の最先端に触れ、世界に発信する機会がここにはあります。自分たちが制作した作品を国際展示会に出展する、世界の学生と創造力を競い合う。世界の才能との出会いが、自らの内なる才能を開花させていきます。

ハリウッド映画におけるCG史

アメリカでハリウッド映画のCG制作現場に触れる北米でのCG研修

近代ハリウッド映画においてCGがたどってきた発展の歴史や、ハリウッドのCG制作会社の歴史とその活動について学ぶ特殊講義。実際にアメリカを訪問し、最新のCG映画制作の現場に足を踏み入れます。



グローバル映像社会実習

韓国でのフィールドワーク、映像記録を行う「グローバル映像社会実習」

「韓国社会におけるグローバル化」を研究テーマとし、社会内部におけるグローバル化と、韓国文化のグローバル発信の両面から学ぶ特殊講義。韓国で現地調査や、K-POPカルチャーの国際化に関わってきた専門家からの講義を受けるなどの見学活動を行います。



香港 FILMART

アジア最大級の映画・映像の見本市
「香港 FILMART」で世界の関心を引く

アジア最大級の映画・映像の見本市「香港 FILMART」。世界各国から映画・映像コンテンツを持ち寄り、映画関係者が様々な交渉をおこないます。映像学部もここに出演し、商談の結果「映画制作論」で制作した映画をデルタ航空・KLMオランダ航空などの機内上映作品とする契約を結びました。



SIGGRAPH Asia

デジタル映像技術の国際学会
「SIGGRAPH Asia」にて展示・発表

SIGGRAPH (Special Interest Group on Computer GRAPHics) が主催するコンピュータグラフィックスとインタラクティブ技術に関するカンファレンスと展示会「SIGGRAPH Asia」に、映像学部も展示・発表を行っています。大作映画のVFXシーンに活用されるCGの最新技術の発表や、バーチャルリアリティなどのインタラクティブ映像技術について論文発表やデモ展示があり、映像学部も展示とトークセッションをおこないます。





映像の最先端で磨く専門性

ゼミナール形式の授業「映像文化演習(ゼミナール)」(3回生・4回生)を設置しています。ゼミナールでは講義科目と実習科目の学びを統合し、各自のキャリアデザインを十分にふまえ、映像に関わる知識と技術を高めます。また、それを活かし、学びの総仕上げとして全員が「卒業研究」(4回生)で、卒業制作または卒業論文執筆に取り組みます。

映画芸術ゾーン

映画制作／映画研究／ドラマ／ドキュメンタリー／広告映像／実験映像／3DCGアニメーションなど



映画芸術ゾーンのゼミでは、実写映画とCGアニメーションを表現手段とし、作品の制作とそれに関連する理論や歴史について学修します。実写ゼミではドラマ・ドキュメンタリー・CMなど実写映像・映画分野を対象とし作品制作をおこないます。映像表現の感覚と映像表現技法を駆使した映画・映像作品を完成させます。CGアニメーションゼミでは、教員による個別指導を受けながら、Mayaを中心とした各種ソフトを用

いて3DCGの短編アニメーションを制作します。グループ制作ではなく、企画立案から完成までの全工程を一人で行います。映画研究ゼミは、実写映画、ドキュメンタリー、アニメーションなどの映画作品を取り上げ、理論的、歴史的観点からこれらを考察、分析することを目的にしています。4回生時には映画研究に関わる卒業論文を仕上げていくことになります。

ゲーム・エンターテインメントゾーン

遊び／デジタルゲーム／制作倫理／プランニング／エンジニアリング／アートワークなど



ゲームゼミ(asobi-lab)は、新しい遊びやゲームの創造を主眼とする制作系のゼミであり、企業では行えない総合大学ならではのゲーム制作を探求しています。所属する学生たちは、プランニング、エンジニアリング、アートワークといったゲーム制作に必要な技術を、複数の教員から学びつつ、既存の作品の模倣に留まらないユニークな創作を展開しています。大学院生と学部生の間の垣根が低く保たれ、高度なプロジェクトに

学部生が気軽に参加することも可能です。また、国内唯一の大学内ゲーム研究施設である立命館大学ゲーム研究センターと連携し、作品制作の観点からゲーム研究を行うゼミとして国際学会での展示発表も積極的に行ってています。こうした取り組みは外部からも高く評価され、京都デジタルアミューズメントアワードでの3年連続の受賞や、ISCAデジタルコンテンツ部門で優秀作受賞など多くの受賞歴を有します。

クリエイティブ・テクノロジーゾーン

メディアアート／バーチャルリアリティ／ヒューマンインターフェース／メディア表現技術／メディア情報技術／メディア考古学／コミュニケーションデザインなど



映像メディアに関する新しい技術とその創造性を探求するクリエイティブ・テクノロジーゾーンでは、それぞれのゼミに次のような特徴があります。映像メディアに関する実践を映像理論やメディア考古学などの理論と突き合わせながら考察すること狙いとしたゼミ。コンピュータ生成によるバーチャル空間を没入体験するバーチャルリアリティと、現実空間とバーチャル空間の複合であるミクストリアリティを活用した、クリエ

イティブな「学び」や「教育」を基本テーマとするゼミ。最近の技術により可能になった芸術的表現の方法を中心に、テクノロジーの新たな活用方法を探求・実験するゼミ。行動や体験を誘発するインタラクティブメディアやコミュニケーションデザインに着目したメディアアートを制作するゼミ。いずれもメディアの創造とメディアによる創造性について学びを深め、論文の執筆や作品の発表を行うことを目標にしています。

映像マネジメントゾーン

コンテンツビジネス／クリエイティブ産業／コンテンツのグローバル化／プロデュース／メディアミックス／文化資源アーカイブ／データ基盤の構築など



マネジメントゾーンでは、京都ならではと言える映像メディア産業や文化資源と深く関わりながら、映像メディア産業の国内外の動向を学び、どのようにマネジメントがなされ、どのような課題があるのかを学んでいきます。京都に地域性を持つ講義は、衣笠などにおいて実施され、京都の映像メディア産業との産学公連携プロジェクトへの参加や、衣笠キャンパスに構築された映像メディア産業のアーカイブと紐づいた世界的に

も先進的なデータベース構築への取り組みとその活用、映像産業発祥の地と言われる太秦に隣接した地の利を活かした実践的な教学を展開することで映像メディア産業への進路を志望する学生にとって重要なテーマに関わりながら、学びを深めています。映像メディアに関わる作品を作るだけでなく、それをいかに社会に届け、価値を生み出すかを学びます。

社会映像ゾーン

メディア社会学／映像人類学／マイノリティ研究／記録映像制作／メディア利用行動／デジタルアーカイブなど



社会映像ゾーンのゼミでは、映像という媒体を使って、社会を構成する人や物との関係性を解釈し、理解を深めていくことを共通の目的としています。具体的には、フィールドワークで現場に赴き、人類学の視点から社会を記録して映像制作を行うゼミや、私たちを取り巻く「文化」をデジタルアーカイブとして保存する取り組みを行うゼミがあります。また、社会学の観点からメディアと人々の関わりを研究したり、メディアの歴史

や地域との関係性を考察したりするゼミもあります。調査方法は多岐にわたり、現場でのフィールドワーク、インタビュー、アンケートなどを通じてデータを収集します。社会映像ゾーンのゼミでは、社会と向き合い、映像表現の可能性を追求することができます。

学びの成果を学内外に発信する一大イベント

映像学部生・研究科生の作品制作・研究の成果を学内外の方々に向けて発表する最大の機会として毎年10月に「ジャンキャリ」(EIZO JUNCTION × キャリアフェア)を、毎年2月に「立命館映像展」(立命館大学 映像学部 卒業制作・大学院 映像研究科 修士制作 合同展示・上映会)を実施しています。

ジャンキャリ | EIZO JUNCTION × キャリアフェア



「ジャンキャリ」は、企業関係者や現場で活躍されているクリエイターの方々をお招きし、学部生・院生との交流をとおして、作品制作・研究活動への意欲やキャリア意識の向上を促す、映像学部・研究科ならではのイベントです。例年、10月に開催しています。

【過年度講演いただいた企業の例】

(株)KADOKAWA／(株)カプコン／関西テレビ放送(株)／(株)クレッセント／(株)ジェットスタジオ／(株)スクウェア・エニックス／チームラボ(株)／(株)TYO／(株)デジタル・フロンティア／(株)電通／日本放送協会(NHK)／(株)ネイキッド／(株)毎日放送／(株)レベルファイブ／(株)白組／日産自動車(株)／(株)円谷プロダクション

2024年度の「ジャンキャリ」

2024年度の「ジャンキャリ」は、200名を超える方々にご参加いただきました。当時は、企業関係者やクリエイターの方々による基調講演、キャリア企画(企業講演)、学生による発表・展示(作品上映、各種プレゼンテーション、ゲーム・VR・メディアアートなど)を行い、学生作品についてはYouTubeの特設チャンネルから配信も行いました。当日開催された、ジャンキャリアワードでは、「上映部門」、「展示部門」、「プレゼンテーション部門」の3部門での受賞作品を決定しました。

展示部門 最優秀賞 『NoiseVis』



ノイズの可視化をテーマにした本作品は、タイヤや金具がついた箱を触ることでノイズを発生し、画面を変化させる。ビエゾ素子を用いることで触覚ノイズをビジュアルエフェクトに変換する。

PROGRAM

開会式

基調講演

キャリア企画 (企業講演)

学生企画 (上映・プレゼン・展示)

クロージングセッション



立命館映像展 | 立命館大学 映像学部 卒業制作・大学院 映像研究科 修士制作 合同展示・上映会



「立命館映像展」は、学内外の方々に、卒業研究・修士研究の成果を直接見て・触れて・体験していただける場でもあります。作品のジャンルは、映画、CM、ドキュメンタリー、CGアニメーション、実験映像をはじめ、ゲームやデジタルアーカイブ、メディアアートといった体験型映像作品まで様々です。例年、2月に開催しています。

2024年度の「立命館映像展」

〈作品の例〉



〔上映〕映画「搖蕩」 上田 里紗、福田 智昭

音楽が好きな美咲は、就職活動をする中で、面接官や友人、家族からの言葉によって本当に好きなものを見失ってしまう。美咲が好きなものを再認識し、再び前に進むことができるようになるまでの物語。



〔展示〕AMI-NOOH : ミクストリアリティを用いた アミノ酸学習教材の研究 南部 良佳

ミクストリアリティを用いて、アミノ酸の分子構造を学ぶことのできるシステムを開発した。体験者は、三次元空間上で分子同士を組み合わせることで、人間の体に必要な20種類のアミノ酸を作り上げることができる。



〔展示〕ゲーム要素を用いた1950年代の用水路での 遊びの再現 小濱 佑太

本研究はデジタルアーカイブの一環として、1950年代の外遊び(用水路での魚獲り)の「遊びの追体験」と「記憶の想起」を目的とする、ゲーム要素を取り入れたインターラクティブコンテンツである。





プロ仕様の最新設備と専用スタジオを完備 (大阪いばらきキャンパスH棟)

アニメやゲーム、CG、映像等デジタル制作の現場で使われているものと同等の最新の映像設備、機材を完備しています。



シアター教室 [1F]

階段状に配置された約280席の座席を有し、大画面のスクリーンと Dolby Atmos® 仕様の音響を備えたシアター型の教室。主に講義科目がここで実施されます。



MA ルーム [2F]

5.1chに対応した臨場感溢れるサラウンド環境で、サウンドデザインとミキシングができるMA教室。隣接しているアナウンスブースのナレーション収録が可能です。



サウンドデザインルーム [2F]

マルチチャンネルに対応した音響編集のための専用ルーム。音響処理に特化したプラグインをはじめ、7.1.4chのモニター環境が完備されており、高品質なサウンドデザインが可能です。



スクリーニングスタジオ [2F]

スクリーンに投影した映像を観ながらリアルタイムで映画の編集やカラーリングが出来る、実践的で創造的に映像表現を追求する学びの場です。



アフレコルーム [2F]

静音性と遮音性に優れ、高品質なマイクとモニター環境により、グループでのアフレコやボーカル録音及び楽器収録なども可能な部屋。クリアな音声収録と確認が可能な音響調整室を備えています。

4F	メディアデベロップメント・ラボ/チームクリエーション・ラボ/クリエイティブPC教室1・2/イノベーションラウンジ
3F	映像編集実習室/映像編集室1~8/パーソナルクリエーション・ラボ
2F	サウンドデザインルーム1・2/スクリーニングルーム/映像編集実習室/アフレコルーム/フォーリールーム/スクリーニングルーム/MAルーム1・2/社会連携スペース/メディアアーカイブ・メディアトランസ്ഫারルーム
1F	シアター教室 (Dolby Atmos® 仕様) /スタジオA・B



実習スタジオ [1F]

実写系授業での撮影をメインに行うスタジオ。LEDライトを活用したカラーライティング技術・技法の習得や、多様化する撮影照明表現における対応力を身につけることができる実習スタジオです。



フォーリールーム [2F]

多様な床面を揃え、各種足音や動作音及び映像と一緒にしたリアルな音響効果音を収録するため、水槽やシンクも備えた専用の部屋。クリアな効果音の収録と確認が可能な音響調整室を備えています。



パーソナル・クリエーション・ラボ [3F]

高性能なPCを多数備えた自習室です。CG制作やポスプロ作業など、一人ひとりの学生が静かな環境で制作に集中するための自習室です。



メディア・デベロップメント・ラボ/チーム・クリエーション・ラボ [4F]

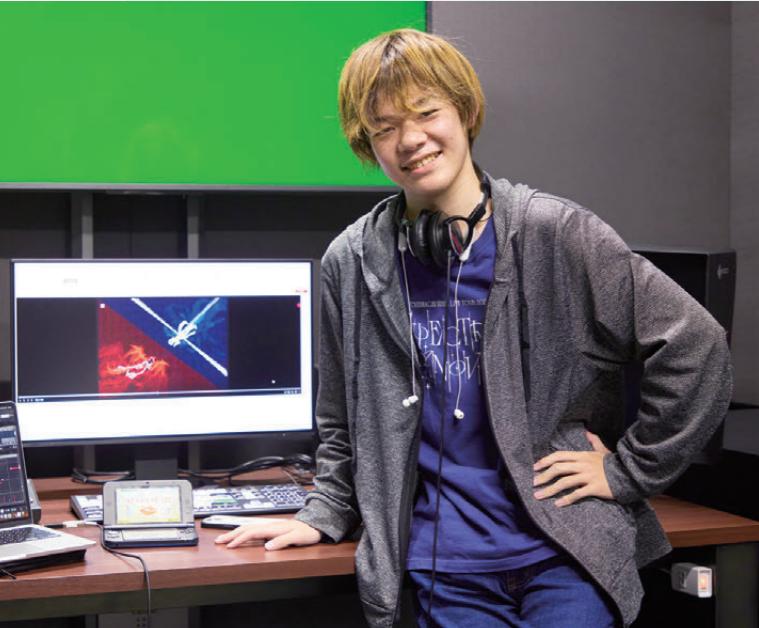
VRデバイスや壁面に映像を投影するプロジェクタが設置されている教室。空間を生かした体験型映像作品の創作やシステム開発について学ぶことができます。

H棟には他にも

こんな施設があります

映像コンテンツの制作や配信を行うことができるライブストリーミング設備を有したスペースや、対面授業とオンライン授業が融合した双方向の学びができる「ひな壇状のアクティブラーニング教室」があります。





2回生 池田 大翔 さん(大阪府立春日丘高等学校出身)

ドキュメンタリー映像制作に取り組み コミュニケーション力も重要と知った。

入学前は、映像制作に関する知識や技術はほとんどなく、「ついていけるかな」と不安もありました。でも入学したら、多様な授業を通じて自分の興味の幅を広げ、楽しみながら学びを深めていくことができました。

印象に残っているのが、「映像人類学実習」で、ドキュメンタリー映像制作に挑戦したことです。私は、ジャズカフェを営むご夫婦にインタビューを行い、ご夫婦の店に対する想いを映像に収めました。実習を通して強く感じたのは、被写体と信頼関係を築くことの重要性です。相手の表情やその場の空気を読み取り、相手の立場になって話を聞くことが、より深い内容や自然な言葉を引き出すことにつながると実感。映像制作は、技術を磨くだけでなく、そこに関わる人との関係づくりやそのためのコミュニケーション力も不可欠だとわかり、視野が大きく広がりました。

卒業研究では、「海の漂流物の活用」をテーマに、ドキュメンタリー制作に取り組んでいます。ゴミと捉えられる海洋漂流物に新たな価値を見出し、アート作品などに再利用している人々にインタビューを行い、その活動を映像で記録。漂流物の持つ可能性を訴えかけるとともに、環境問題への関心を喚起できる作品を目指しています。

映像学部の魅力は、共に学ぶ個性豊かな仲間がいることです。ライブやゲーム、アニメ、音楽など、さまざまなジャンルに強いこだわりや情熱を持つ「オタク」がたくさんいて、そうした仲間に刺激を受け、切磋琢磨する中で、自分自身も成長できます。映像に興味のある方はぜひ、立命館大学映像学部の学びに挑戦してほしいです。



4回生 門田 彩佳 さん(香川県立丸亀高等学校出身)

多様なデジタル制作技術を習得。
あらゆる学びが糧になると実感している。

「将来はミュージックビデオやアニメーションなどを創作する仕事をしたい」と思っていました。そのための専門的な知識や技術を習得できることに加え、同じ志を持った仲間と出会えたらと期待を抱き、映像学部を志望しました。

特に注力して受けているのが、実践的な授業です。「CG実習」で、CG制作に取り組む他、「DAW制作演習」では音楽制作、「デジタルメディア演習」では多様なデジタル表現など、さまざまなジャンルのデジタル技術を実際に使いながら学んでいます。CGを自作して、習った技術を復習したり、友達に教わりながら、音楽制作ソフトのDAWを使って自分でも音楽を作りながら、授業以外でも「とにかく作る」ことが、知識・技術の定着につながっています。

またストーリーの創作に不可欠な知識を身につけられる「物語理論」や「文芸創作論」、総合大学の立命館大学だからこそ学べる「数理の世界」や「現代の経営」、「英語」など、講義形式の科目も、興味深く受講しています。技術を身につけるだけでは、クリエイティブな作品を創ることはできません。一見、創作には関係ないと思うような知識も含め、あらゆる学びが創作力を高める糧になる。それが面白いところです。

一方課外では、アニメーション制作の自主ゼミ「おかしらつき」に所属し、同じ目標を持った同志と一緒に、学びを深めています。まだまだやるべきこと、やりたいことはたくさんあります。目標を持って挑戦する大切さと楽しさを実感しながら、精いっぱい取り組んでいます。

大学院 映像研究科

Graduate School of Image Arts

近年の多様化する映像文化・映像産業をめぐる状況の中では、映像に関するジェネラリスト的な素養と領域・分野に応じた高い能力が求められます。そのため、映像研究科ではプロデューサー・マインドを備えたビジュアル・ディレクターの育成を目標とし、他には見られない特徴的な学びを展開しています。

映像文化への横断的思考の涵養

- 立命館大学という総合大学において、多岐化・多様化を続ける映像世界を、包括的・構造的に測定する能力、複眼的あるいは柔軟に考察する能力を養う
- 一分野に特化し狭い範囲で専門的技術修得者を養成するのではなく、多面的な視点を携え、専門性が高いレベルの中でも汎用性の高い技能、技術、知識を持ち、変化の激しい映像文化において弾力的な対応ができる能力を育む
- 社会の求める課題を発見し、調査し、その上で自らの研究・制作・開発を深める

サブジェクト・ゾーン

5つのサブジェクト・ゾーンを選択し、学修経路を自覚しながら、複合的な映像の領域において幅広い視野と専門性の高い理解と技術を身につける

映画芸術

実写映画とCGアニメーションを表現手段とし、作品の制作とそれに関する理論や歴史について学修するゾーン。

ゲーム・エンターテインメント

京都のインディーゲームシーンやゲーム産業と連携しつつ、ハード・ソフト・サービスを対象とした、先端的なエンターテインメント創造に関する知見・技法を学習するゾーン。

クリエイティブ・テクノロジー

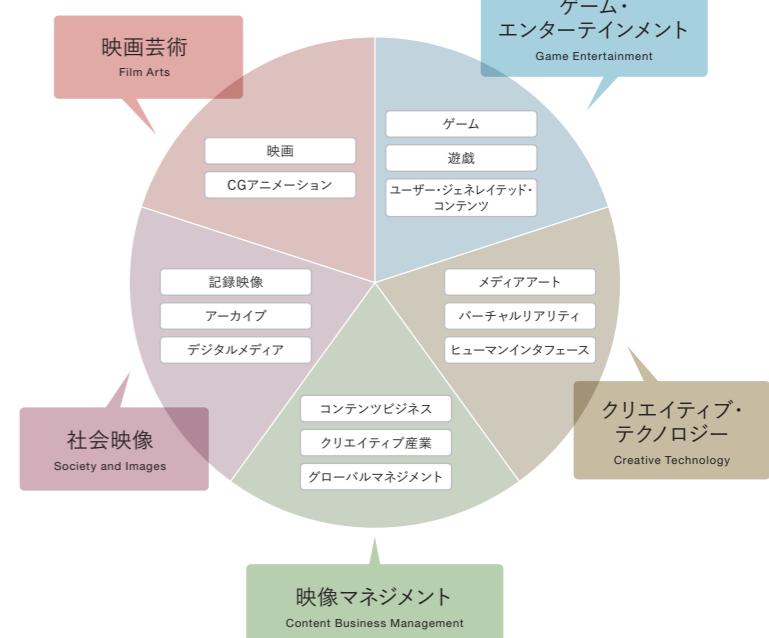
メディアテクノロジーを基盤とした視聴覚情報の伝達と受容に関する先端的知識や技能を学修するとともに、そうした知見に基づくメディア表現の創造や開発について研究を行うゾーン。

映像マネジメント

京都映像文化の起源から現在の映像産業までを射程に、ビジネスから社会、国際貢献までを視野に入れた専門知識を学ぶゾーン。

社会映像

映像が浸透し、メディア環境が転換期を迎える現代社会はもちろん過去や未来の社会とのかかわりの中で映像の価値や意味を問い合わせ、社会の中で、社会を対象として、社会のために、映像を制作・研究するゾーン。



テーマ・プロジェクト型制作・研究とディシプリン・リサーチ型学修の融合

- 映像学に素地のある学生が早期から研究活動の実質化に注力でき、また基礎的な知識・教養の補強が必要な学生はその獲得を集中的な機会で得られる導入・基幹科目を配置
- 授業科目群の複合的な結合が特徴

「テーマ・プロジェクト型」授業科目群

→自ら課題を見出して制作あるいは研究に結実させていく

→「映像研究演習」「映像研究キャリア演習」など映像関連分野の制作・研究にとって背景となる知識を獲得する授業科目を配置し、「プロジェクト演習」で修士論文・制作に向けた準備を進める

「ディシプリン・リサーチ型」授業科目群

→講義・実習形式により、映像に関わる諸分野の研究に必要な知識・分析法・技能・技術を修得

研究指導システム

修士論文もしくは修士制作・解説論文の完成にむけて、教員2名、院生1名の複数指導体制を確立